

マレーシア編

あまり知られていないシンボル、伝統凧のワウ



クランタン州コタバルのワウ工房(左)とさまざまなところで使われるワウのモチーフ(上)。

マレーシアのシンボルは3つあります。ハイビスカス、マレー伝統の短刀クリス、そして伝統凧ワウです。

このワウはマレー半島東海岸のクランタン州やトレンガヌ州のマレー人の伝統凧。日本の凧は三角形をしています。マレーシアの凧は鳥のような独特の形をしています。さまざまな形状があるようですが、なかでも「ワウ・ブラン」というものがよくみられます。

「ワウ」はアラビア文字の「ワウ」(数字の9のような形)に似ていることからこの名称がついたといわれていますが、この凧は空に飛ばすと音を発するため、その音から名付けられたとの説もあります。また、「ブラン」はマレー語で「月」という意味ですが、凧の下部が三日月の形をしているので、この名がつけられたようです。

大きさは大きいもので縦の長さは1メートル以上、横幅は3メートル以上。竹をフレームにして作り、そこにさまざまな色紙を貼り付けていきます。この色紙上にいろいろな美しいモチーフを描かれるのですが、ここが職人の腕の見せ所。ワウは手作りで注文を受けてから作り始めます。小さいものでも完成まで約2週間、大きいワウだと1か月以上もかかります。金額も値が張ります。一枚あたり数千円から高いものは数万円～。

最近は遊び用というより飾り用として購入する人が多く、クアラルンプールではお土産として売られていることも。東海岸のほとんどのホテルのロビーにはワウが飾られ、お土産屋ではこれをモチーフにしたものもあります。

この伝統凧が飛ばされているところはあまり見られないのですが、クランタン州コタバルでは年に一度、凧大会が開かれ、色彩形状豊かな凧が舞い上がります。

このワウの形は日本人のみなさんは実はよく見ているのです。そう、マレーシア航空の赤と青のロゴはこのワウをモチーフにしています。マレーシアのお札である1リング札や旧50セン・コインの裏側にもワウはひっそりと描かれており、マレー人にとっては大事なシンボル。

もしマレーシア航空に乗ったり、お札やコインを見る機会がありましたら、じっくりと観察してみてください。